

# 令和元年度 教育事務事業点検評価報告書

令和3年3月

宮古島市教育委員会



## 目 次

事務事業の点検評価書発行にあたって	・・・・・・・・	1		
1. 点検評価について				
(1) 点検評価の趣旨	・・・・・・・・	2		
(2) 本市の主要施策				
(3) 点検・評価の方法				
2. 事務事業評価一覧表	・・・・・・・・	2		
事務事業点検評価書				
1	I-1	教職員の労働安全衛生管理業務	・・・・・・・・	3
2	I-2	課題を抱える児童生徒の支援事業	・・・・・・・・	4
3	I-3	宮古島市次世代教育ICT整備事業	・・・・・・・・	5
4	I-4	選手派遣支援事業(沖縄振興特別推進費)	・・・・・・・・	6
5	II-1	学校支援地域本部事業	・・・・・・・・	7
6	II-2	家庭教育支援事業	・・・・・・・・	8
7	II-3	移動図書館事業	・・・・・・・・	9
8	II-4	ブックスタート事業	・・・・・・・・	10
9	III-1	博物館運営事業	・・・・・・・・	11
10	III-2	劇団かなやらび補助金交付事業	・・・・・・・・	12
11	V-1	板倉区児童交流事業(城辺地区)	・・・・・・・・	13
12	V-2	白川町海山交流事業(下地地区)	・・・・・・・・	14

## 事務事業の点検評価書発行にあたって

平成19年6月27日に公布（平成20年4月1日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」第26条において、新たに教育委員会の所管する事務事業の管理及び執行状況について、外部の学識経験者の知見を活用し、点検及び評価を行い、その結果について、議会に提出するとともに、広く公表することとされました。

宮古島市教育委員会では、同法に規定する教育行政事務事業の点検評価をするにあたり、教育に関し学識経験者の意見を聴取する形の有識者会議を開催し、教育主要施策5項目のうちから14事務事業について、評価をいただきました。

教育委員会としましては、この評価を本市の教育行政に役立てつつ、さらに、市民からの情報、ニーズも幅広く収集し、事業の活性化と充実について、なお一層の努力を傾注するものであります。

令和4年3月

宮古島市教育委員会

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 1. 点検評価について

### (1) 点検評価の趣旨

本市においては、「個性豊かな文化をはぐくみ、一人ひとりが輝く島」をめざし、教育行政の指針となる教育施策を策定しました。その施策項目を基本とした各事業を展開し、その成果について点検評価を実施しました。この事務事業評価については、より良い教育環境づくりを推進するため、今後の施策展開に活用してまいります。

なお、この事務事業点検評価は令和元年度を対象とし、教育委員会の機能充実の視点から抽出いたしました。

### (2) 本市の主要施策

- I 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進
- II みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実
- III 郷土の歴史・民俗の伝承、文化・芸能活動の推進
- IV 家庭・学校・地域社会の連携で進める青少年健全育成の推進
- V 多都市間交流の推進

### (3) 点検・評価の方法

事務事業の点検・評価にあたっては、「必要性」「効率性」「有効性」を基準として踏まえ「A＝拡充」「B＝継続」「C＝改善」「D＝廃止」「E＝完了」の指標で、内部評価を行い、さらに有識者による点検・評価を行った。

### (4) 外部評価委員（学識経験を有する者）

下地 信輔	元宮古島市教育委員
野原 敏之	元宮古島市教育委員
饒平名 和枝	宮古島市文化協会会長

## 2. 事務事業評価一覧表

評価書番号	所管課	事務事業名	評価
I-1	教育総務課	教職員の労働安全衛生管理業務	A(拡充)
I-2	学校教育課	課題を抱える児童生徒の支援事業	A(拡充)
I-3	学校教育課	宮古島市次世代教育ICT整備事業	A(拡充)
I-4	学校教育課	選手派遣支援事業(沖縄振興特別推進費)	A(拡充)
II-1	生涯学習振興課	学校支援地域本部事業	B(継続)
II-2	生涯学習振興課	家庭教育支援事業	B(継続)
II-3	図書館	移動図書館事業	B(継続)
II-4	図書館	ブックスタート事業	B(継続)
III-1	総合博物館	博物館運営事業	A(拡充)
III-2	文化ホール	劇団かなやらび補助金交付事業	B(継続)
V-1	公民館	板倉区児童交流事業(城辺地区)	B(継続)
V-2	公民館	白川町海山交流事業(下地地区)	B(継続)

# 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：教育総務課

**【主要施策】**

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

**【事務事業名】**

教職員の労働安全衛生管理業務

**【目的・計画概要等】**

労働安全衛生法（以下、「法」という。）に基づき、宮古島市立小・中学校における職員の安全と健康の確保、快適な職場環境の形成促進を図ることを目的とする。  
平成31年度より、保健師を配置。

**【実施状況】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮古島市立小中学校職員安全衛生管理規定策定（別紙参照）</li> <li>・産業医業務委託（平良中, 委託先：下地診療所） 法第13条第1項の規定に基づき、職員が50人以上いる学校に産業医を配置。 産業医の役割：健診結果による就業上の判定や勧告、作業環境の点検、長時間労働者の面接指導、その他健康管理についての指導、助言</li> <li>・定期健康診断(法第66条) 年1回、集団での健康診断を実施。受診率 50%</li> <li>・ストレスチェック制度の実施（公立学校共済組合に委託） (法第66条の10) 実施率 56.3%</li> <li>・職員が50人未満の学校における医師面談（委託先:下地診療所） (法第66条の10 3) 高ストレス者で医師面談希望者に実施 実績 1名</li> <li>・カウンセリング事業（委託：ていんぬばう診療所）（市独自事業） 学校職員及び教育委員会職員対象に、実施。実績 0人（令和元年11月～令和2年3月末）</li> </ul>	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	3,451,677 円
	計	3,451,677 円

**【担当者説明】**

区分	説明	内部評価
必要性	学校職員が健康であることで、子ども達に適切に関わることができ、子どもたちの「生きる力」の育ちにつながる。	総合評価：A（拡充）  労働安全衛生法で義務となっている体制について、未整備なものがあるため、拡充する必要がある。 （未整備の業務：「職員が50人未満の学校の健診結果に係る医師の意見聴取」法第66条の4） 県内においても、学校現場での労働安全衛生に関する意識は低く、特に教師のメンタル面が課題となっている。労働安全衛生管理を継続・拡充することで、学校職員の健康意識を高めるとともに、労働環境の改善を図ることで、子ども達の健全な成長につなげていきたい。
効率性	教育委員会に保健師を配置したことで、これまで学校現場では後回しにされがちな職員の健康管理が、効率よく実施できる。	
有効性	本業務は、今年度が初年度であった。今後継続していくことで、学校現場での健康管理の意識が高まっていくと思われる。	

\* 総合評価（A = 拡充 B = 継続 C = 改善 D = 廃止 E = 完了）

**【外部評価】**

<p>教師のストレスの要因は、主に指導法、上司や同僚との人間関係、長時間労働等が考えられる。一人一人のストレスチェックを行い、その改善を図るため産業医や保健師、校長等と連携し、快適な職場環境づくりのために頑張ってください。</p>	総合評価
	A

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

【事務事業名】

課題を抱える児童生徒の支援事業

【目的・計画概要等】

いじめ、不登校、児童虐待等、生徒指導上の課題を抱える児童生徒に対し、関係機関や児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけ、課題の改善を図ることを目的とする。  
個々に応じた支援の充実に向けて、SSW（スクールソーシャルワーカー）を教育委員会に配置する。また、問題行動等課題を抱えた児童生徒に対しては、適切な指導・支援の取り組み強化のため問題行動等に対する学習支援員を在籍する学校に配置する。

【実施状況】

令和元年度の支援状況 ・SSWは6名配置の予定であったが、令和元年度は4名配置であった。SSW4名を各担当校に派遣し、支援を行うと共に、学校、福祉、医療等の各関係機関と連携し、児童生徒の環境改善を図った。 ・令和元年度支援対象児童生徒 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>小学校</td> <td>57人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>55人</td> </tr> </table> ・問題行動等に対する学習支援員の配置状況 ・問題行動等に対する学習支援員3名を3校に配置する予定であったが、7月に1名退職し、 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>配置校</th> <th>支援員数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平良中学校</td> <td>1人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>北中学校</td> <td>1人</td> <td>7月で退職し以後不在</td> </tr> <tr> <td>結の橋学園</td> <td>1人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	小学校	57人	中学校	55人	配置校	支援員数	備考	平良中学校	1人		北中学校	1人	7月で退職し以後不在	結の橋学園	1人		決算額（財源内訳）	
	小学校	57人																
	中学校	55人																
	配置校	支援員数	備考															
	平良中学校	1人																
	北中学校	1人	7月で退職し以後不在															
結の橋学園	1人																	
国・県	9,089,000	円																
地方債		円																
その他		円																
一般財源	2,275,576	円																
計	11,364,576	円																

【担当者説明】

区分	説明	内部評価
必要性	貧困問題や親の養育能力の低下など児童生徒を取り巻く環境は年々複雑化し、支援のニーズも増加している	総合評価： 課題を抱える児童生徒の支援内容が多様化し、福祉・保険・医療等、関係機関との連携や校内生徒指導体制の充実も重要となっている。 <b>【成果】</b> SSWを介して学校、関係機関等との連携が図られ、各機関の役割分担が明確化され、きめ細かな支援体制が構築されている。問題行動等に対する学習支援員の配置校では、支援員による学習支援や教育相談活動を通して、対象児童生徒への計画的な支援が図れている。 <b>【課題】</b> 人材確保が困難で、SSWは一人あたりの担当校が多くなったり、問題行動等学習支援員は年度途中から配置できない学校があった。
効率性	SSWは派遣型の体制で、学校からの要請により、生徒指導主任を中心とした行動連携を図っている。問題行動等学習支援員は配置校において、対象児童生徒に対しての相談活動や学習指導、校内生徒指導体制、教育相談体制の充実を図っている。	
有効性	関係機関との連携や校内生徒指導体制の充実を図ることで、多様な課題の解決を図ることができる。	

\*総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

【外部評価】

児童生徒を取り巻く教育環境は、いじめや不登校等の生徒指導上の課題、貧困や養育能力低下等、依然として厳しいものがある。費用対効果が分かりにくい事業ではあるが、スクールソーシャルワーカーや支援員を十分確保して、充実した関わりができるよう取り組んでほしい。また、貧困問題や不登校等は、保護者とセットにして、対応しないと効果はあがらないと思うので、関係機関と連携して保護者も含めて支援を継続して下さい。	総合評価
	A

# 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

## 【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

## 【事務事業名】

宮古島市次世代教育ICT整備事業

## 【目的・計画概要等】

「宮古島市教育情報化推進計画」（平成30年10月策定、令和2年12月改訂）に基づき、「情報活用能力」を「これからの社会を生きる力」として捉え、情報活用能力を備えた人材育成のための学校教育環境整備を図る。

令和元年度は従来より行っている下地中学校のタブレット貸借と機器の保守及び修繕の他、一括交付金を活用しての電子黒板整備事業を実施した。

## 【実施状況】

【電子黒板整備事業】	決算額（財源内訳）	
平成30年度に整備した7校を除く21校に、241台の電子黒板を整備 「令和元年度電子黒板整備事業に係る物品購入契約」 109,080,000円	国・県	109,080,000 円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	10,202,041 円
	計	119,282,041 円

  

【次世代教育ICT整備事業】	事業名	内容	決算額
	下地中情報化システムリース	下地中タブレット65台、授業支援アプリの貸借	2,835,540
	平成30年度電子黒板保守	7校109台分の機器保守	2,418,492
	令和元年度電子黒板保守	9月までに納入された21校241台分、6ヶ月間の保守	4,620,000
	その他修繕費用	PC修繕等	328,009

## 【担当者説明】

区分	説明	内部評価
必要性	これからの社会を生きる子ども達にとって、情報活用能力の育成は必要不可欠であり、地域や家庭の格差無くこれを育成するため、学校教育における取組が重要であり、そのための環境整備は必須である。	総合評価： 全小中学校の普通教室及び特別教室には電子黒板が整備され、教育情報化のための環境整備目標のひとつである「大型提示装置」の整備が完了した。 また、本事業の成果目標として掲げた「わかりやすい授業の構築」についても、児童生徒アンケートの結果が72%と、目標とした80%には届かないものの高い評価を得ている。 今後は、ネットワークやタブレット整備、環境維持や活用に向けた教員のサポートに注力し、より高い効果を生むことを目指す。
効率性	整備内容や業務実施体制については適正であり、効率的と考えている。	
有効性	学校現場での活用のため、必要な環境整備がされており、有効である。	

\*総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

## 【外部評価】

これからの時代生きていくには、情報を管理することはとても大事なことで、子供達が無限に入ってくる情報を取捨選択し間違っ情報を発信しない。そういった未来の子供達を育てていくためのICT教育だと思います。今は、ハード面の整備に重点が置かれている様に感じます。「間違っ情報を選択しない」、ネットで人を傷つけない心豊かな子供達を育てる様希望します。	総合評価
	A

# 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：学校教育課

## 【主要施策】

I 学校教育 子どもたちの「生きる力」を育む学校教育の推進

## 【事務事業名】

選手派遣支援事業

## 【目的・計画概要等】

宮古島市立学校のスポーツ・文化活動を振興するため、対外行事・試合などの奨励に資するとともに、参加する児童生徒の派遣にかかる費用の保護者負担を軽減する目的で、地区選抜代表選手等に対し、航空運賃に係る費用の一部を補助する。

【補助対象経費】 航空運賃（県内1/2、県外7/10）、楽器輸送費・上限5万円  
 【事業の目的】 島外の人との競争や交流の機会を増やすことで児童生徒に広い視野を持たせる。  
 【成果目標】 保護者に対するアンケート「児童生徒が広い視野を持てたか」（80%以上）

## 【実施状況】

スポーツや文化面で地区代表選手等として島外へ派遣される延べ2172人の児童生徒に対し旅費を補助し、保護者の経済的負担軽減を図った。 ○主な派遣先【小学生（県内）749人（県外）123人、中学生（県内）1167人（県外）133人】 ・小学生： 県内 「JA共済カップOFA第33回沖縄県U-11サッカー大会」25名、 「第66全沖縄学校音楽発表会」86名 県外 「全農杯2019年全日本卓球選手権大会」3名、 「第45回九州アンサンブルコンテスト」11名 ・中学生： 県内 「第64回沖縄県中学校新人ソフトテニス大会」21名、 「2019年度英語ストーリーテリングコンテスト県大会」2名 県外 「第15回九州中学校空手道競技大会」1名、 「第64回九州吹奏楽コンクール」47名	決算額（財源内訳）	
	国・県	17,592,000 円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	7,825,492 円
	計	25,417,492 円

## 【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	宮古島市は、島嶼県の離島であると同時に、高失業率や世帯所得水準の低い中、児童生徒がスポーツ・文化活動で県及び全国大会等へ出場する際の旅費の捻出が、保護者にとって大きな負担となっている。	総合評価： 県内の大会において好成績を収める児童・生徒が増え、九州・全国大会への参加のため県外派遣の件数は増加している。 保護者にとって大きな負担である高額な県外渡航費の負担軽減に寄与できたと評価している。 また、保護者アンケートの回答率も97%と高評価であったことから、本事業のニーズは高いことが伺え、これからも継続して実施していきたい。	総合評価
効率性	学校単位で申請書等必要書類を取りまとめ提出してもらっているため、提出漏れが無く効率良く補助金を支給できる。		B
有効性	成果目標である保護者アンケート「児童生徒が広い視野を持てたか」回答率は97%であり、宮古島市立学校のスポーツ・文化活動の振興に寄与できたと見える。		

\* 総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

## 【外部評価】

コロナの関係で大会が中止になり、予算の消化ができなかったと担当から聞きましたが、次年度も多く児童生徒の皆さんが、いろいろな大会で活躍できるように支援してほしい。できれば、もっと予算を増やして、県内派遣の補助率を上げるなど保護者の負担を減らすことができればベストだと思う。	総合評価
	A

# 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

## 【主要施策】

Ⅱ みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実

## 【事務事業名】

学校支援地域本部事業

## 【目的・計画概要等】

学校の教員や地域の大人が子ども達と向き合える時間を確保し、地域の教育力の向上を図るため、地域住民がボランティアとして学校支援活動ができる体制づくりを推し進め、学校を含めた地域コミュニティの活性化を目指す。また、地域コーディネーターを活用し、ボランティア等の確保や地域ボランティアとの連携調整、地域の実情に応じた活動プログラムの企画・支援等を行う。

## 【実施状況】

実施校区：平良中校区学校支援地域本部 （平良第一小学校、南小学校、平良中学校） 伊良部島中校区学校支援地域本部 （伊良部島小学校、伊良部島中学校）  地域コーディネーター2名を配置し、朝の読み聞かせ、あいさつ運動、登下校安全指導・安全マップ作り、総合的学習支援、平和学習、十五夜シーシャ作り等を実施している。	決算額（財源内訳）	
	国・県	499,000 円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	334,080 円
	計	833,080 円

## 【担当者説明】

区 分	説 明	内 部 評 価	
必要性	学校と地域社会の連携体制を構築し、地域住民の参画を得て子ども達の成長を育む環境づくりが必要である。	総合評価：B  地域が学校を支援することで、地域に関心を持ち、より深い学習に繋がっている。また、地域コーディネーターを仲介役として学校を支援することにより、教職員の負担軽減に繋がり、児童・生徒への指導にゆとりを生む手助けとなっている。	総合評価
効率性	学校と地域を繋ぐ人材がいる事で、事業を達成するための一定の効率性が認められる。		B
有効性	適した人材を活用することでより深い学習に繋がる。		

\* 総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

## 【外部評価】

地域住民が学校のニーズに応え、連携を図りながら自らの知識や経験を子どもの教育に活かすことは、より教育活動の充実化に繋がります。「地域の子は地域で育てる」観点からも、朝の読み聞かせボランティアや総合的な学習の時間、平和学習等における講師として、児童生徒の学習を深化させることは良いことだと考えます。今後とも実施校区を広げつつ、学校と地域が協働のもと共通の目標を持ち、児童生徒の学びや成長を支える活動を充実させていただきたいと思えます。	総合評価
	B

# 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

## 【主要施策】

Ⅱ みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実

## 【事務事業名】

家庭教育支援事業

## 【目的・計画概要等】

事業目的：

すべての教育の出発点である家庭教育を地域全体で支援していくため、学校等との連携を図りつつ、多くの親が集まる機会を活用した学習や情報共有等の機会の提供を行う。

計画：

家庭教育支援リーダーを配置し、年間を通してワークショップや講演会の企画・運営等を行う

## 【実施状況】

家庭教育支援リーダーを配置し、ワークショップや講演会を実施した。  ○親のまなびあいプログラムワークショップ：5回実施 参加者延べ63人 場所：未来創造センター 「読み聞かせについて」、「家庭内のルールについて」、 「感謝の気持ちを伝えよう」、「睡眠について」  場所：青少年の家 「通学学習を通して今より成長した自分になるための目標」  ○講演会「子育てに活かす絵本の読み聞かせについて」 参加者約60人 場所：未来創造センター	決算額（財源内訳）	
	国・県	308,000 円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	155,788 円
	計	463,788 円

## 【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	保護者同士がお互いに相談・話し合える場として今後も必要である。	総合評価：B  これまで県が取り組んでいた事業を令和元年度から市が引き継いだことにより、地域の実情にあう取組がより可能となった。ワークショップのテーマも制限無く対応している。今後も体制づくりを進めながら、定期的にワークショップ等を実施して、保護者同士が集える場として浸透させたい。	総合評価
効率性	保育園・幼稚園・小学校・中学校へ周知し、保護者の関心を高めている。		B
有効性	地域の課題をテーマにして活動が可能である。		

\*総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

## 【外部評価】

家庭環境が多様化し、子育ての悩みや不安を抱えた保護者が増加していることが指摘されている今日、子供たちの健全育成や家庭教育の充実のため、保護者への学びの場の提供や家庭教育を地域全体で支援する活動は重要です。「親のまなびあいプログラム・ワークショップ」の活用が、より地域の実情にあった課題をテーマとして取り組んでいることは大変良いことだと思います。今後も、学校等に周知を図りつつ、保護者が関心を持って参加できるよう、課題に沿った情報を提供するプログラムの実施や講演会等の開催をより充実させていただきたいと思っております。	総合評価
	B

# 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：図書館

**【主要施策】**

Ⅱ みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実

**【事務事業名】**

移動図書館事業

**【目的・計画概要等】**

遠隔地住民に図書館サービスが行き渡るよう、移動図書館車を導入し、図書資料の充実を図り、市民ひとりひとりへの多様な学習活動の提供を行うことで、豊かな心と確かな和を育むことの出来る機会を提供する。

**【実施状況】**

令和元年度（R2年3月31日現在）

	巡回場所数	貸出冊数
小学校	12	8,334
中学校	5	375
小中学校	2	763
幼稚園	2	474
その他	7	1,624
計	28	11,570

国・県	0 円
地方債	0 円
その他	0 円
一般財源	2,800,000 円
計	2,800,000 円

**【担当者説明】**

区分	説明	内部評価	総合評価
必要性	遠隔地住民が図書館サービスを受できるようにするためには、移動図書館車で巡回する必要がある。	総合評価：B＝継続 住民はどこに住んでいても図書館サービスを受ける権利があり、図書館はすべての住民に均等に図書館サービスが行き渡るよう努めなければならない。そのため、図書館への来館が困難な遠隔地への移動図書館の巡回は重要な役割を持ち、今後も継続していく必要がある。	B
効率性	利用ニーズに合った資料を定期的に提供出来るよう周知に努める。		
有効性	利用促進を図るため資料の充実に努め、ステーションの増設を図る。		

\*総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

**【外部評価】**

住民はどこに住んでいても、図書館サービスを受ける権利があるというように、平良以外の地方の皆さんへのサービスがもっと必要だと思います。移動図書館事業は、現在は児童生徒が主な対象者となっているので、保護者や地域の住民への周知を行い、サービスを広げる工夫が必要だと思います。	総合評価
	B

# 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：図書館

## 【主要施策】

Ⅱ みんなで学ぶ生涯学習・生涯スポーツの充実

## 【事務事業名】

ブックスタート事業

## 【目的・計画概要等】

子どもが読書に関心を持ち自主的に読書活動を行うようになるためには、読み聞かせなど発達段階に応じた本との関わりが重要である。そうした家庭における読書活動の重要性を啓発するため、赤ちゃんと保護者へ絵本にふれる楽しさと大切さを伝えながら絵本を手渡し、絵本と出会い、心ふれあうひとときを支援する活動として「宮古島市子どもの読書活動推進計画」に基づき実施している。

## 【実施状況】

4ヶ月検診会場で一人一人に読み聞かせを実施し、絵本を手渡す。 今年は新型コロナ感染防止対策として、4ヶ月健診が集団検診から個人健診へ切り替わったため、対象者には検診後に図書館で受け渡ししている。 (令和元年度は、事業開始年度であるため1歳半も対象とした)  H31年度 955人(冊)	決算額(財源内訳)	
	国・県	0 円
	地方債	0 円
	その他	0 円
	一般財源	1,200,612 円
	計	1,200,612 円

## 【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	乳幼児検診の際に、ボランティアによる読み聞かせを行い、赤ちゃんとのふれあいながら家庭における読み聞かせや読書活動の重要性を保護者に伝える。	総合評価：B＝継続  子どもの言葉や思考力をはぐくみ、情緒の安定に繋がるなど、発達に良い影響をもたらす読書習慣を身につけるためのきっかけとなっており、赤ちゃんに読み聞かせを行うために絵本を借りる保護者が増えている。 始まったばかりの事業であるため、本事業の周知に工夫を凝らす努力が必要。	総合評価
効率性	赤ちゃんに絵本をプレゼントすることで、赤ちゃんと家族が絵本を通じて心のふれあいを持つきっかけとなり、読書の楽しさを知ることができる。		B
有効性	読書を通して言葉を学び、感性を磨くことが出来る。また、表現力や、創造力、洞察力が高まり、人生をより深く生きる力が身に付く。		

\* 総合評価 (A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了)

## 【外部評価】

令和元年度より開始されたブックスタート事業。読書は子供の言葉の発達や思考力をはぐくむ等、人間形成に深く関わります。赤ちゃんの頃から家庭で読み聞かせを実施することの大切さや将来において読書活動の重要性を保護者に伝える、この事業は高く評価できます。令和元年度は、955人の保護者に絵本が渡されており、大変良いことだと感じます。子供のより良い成長のため、読書習慣を身につけるきっかけづくりとなるこの事業を今後も継続していただきたいと思えます。	総合評価  B
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------

宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：総合博物館

【主要施策】

IV 文化振興 文化の振興と文化財の保存・保護並びに活用の推進

【事務事業名】

博物館運営事業 企画展事業

【目的・計画概要等】

資料の収集・保管を強化し、目録資料作成に向けた資料の整理業務を引き続き実施していくとともに、調査研究を促進することで、地域の財産を未来の人々に継承していく。また、常設展示の刷新を図り、先人の思いを伝えていく。展示や企画展を通して市民が歴史の内容や先人の知恵や営み、自然の豊かさを再発見し、島のアイデンティティを感じられる場となるような事業を推進する。

【実施状況】

年間入館者数 19,680人 ・企画展 ①第35回「みや昆-昆虫大集合」入館者数7,185人 ②第36回「平成29・30年度新収蔵品展」入館者数1,742人 ・特別展示 ①平和展「戦中の宮古～造られた3つの飛行場」入館者数2,052人 ②開館30周年記念特別展示「宮古の宝 三十選展」入館者数3,088人 ・ミニ展示 ①ミニ展示「昔のおもちゃ展」入館者数757人 ・その他展示会2回開催  企画展事業 ①剥製骨格標本作製委託業務(鳥類) ②櫃保存修復委託業務 ③視聴覚資料劣化状態調査委託業務(16ミリ映画フィルム・音声6ミリオープンテープ) ④紙芝居制作委託業務(よし君の少年時代) ⑤視聴覚資料複製委託業務(音声6ミリオープンテープ)  博物館運営事業(研修および調査活動) ①沖縄県博物館協会総会/春の研修会参加 ②深海生物調査・打合せ/特攻艇展調査 ③学芸員技術研修会/サシバ展資料借用調整 ④宮古上布調査および受取	決算額(財源内訳)	
	国・県	0 円
	地方債	円
	その他	3,040,500 円
	一般財源	25,833,719 円
	計	28,874,219 円

\*人件費を除く

【担当者説明】

区分	説明	担当者(主管課)評価・コメント
必要性	博物館法に基づく事業	総合評価：博物館運営事業を継続する。  資料の保存については、施設が老朽化していることもあり、収蔵庫の温度、湿度管理や収蔵スペースの確保に苦慮している。 今後は建物の修繕について計画的に進めていく必要がある。
効率性	博物館運営事業は効率性を求めるより、一定の成果が求められる作業である。	
有効性	博物館の運営は、一般公衆に対し公開・頒布することにより、文化の継承に資することができる。	

\*総合評価 (A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了)

【内部評価】

令和元年度は、開館30周年を迎え、記念式典や記念誌の発行に加えて、企画展では、昆虫展を開催するなど、多彩な催しが行われました。入館者の誘致では、新しく旅行会社の日程に組み入れられるなどの動きがあり、令和元年度の入館者数は、19,680名となり総合計画の目標数15,000名を大きく上回った。 博物館運営については、市民が歴史の内容や先人の知恵や営み、自然の豊かさを再発見し、島のアイデンティティを感じられる場、知のプラットフォームとしての更なる充実が求められる。	総合評価  A
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------

【外部評価】

企画展や資料の収集等非常に良い仕事をしています。しかし、常設展示物がもしかして博物館開設以来変化していないのではないのでしょうか。新収蔵物の中に今展示されている品物より良品があれば展示の差し替え等行っても良いのでは。倉庫に眠っている物に展示品よりはるかに価値があるものがあるかもしれません。また、展示説明文にははっきりした間違いがあるものも散見されます。早急に手直しをしてほしい。それから新収蔵品の展示品にもっとストーリーを与えてほしい。展示品の名前と寄贈者の名前だけでは寂しすぎます。寄贈品の物語を書くことより楽しくなります。学芸員の皆さんの頑張りを期待します。頑張ってください。	総合評価  A
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------

## 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：生涯学習振興課

### 【主要施策】

Ⅲ 郷土の歴史・民俗の伝承、文化・芸術活動の推進

### 【事務事業名】

劇団かなやらび補助金交付事業

### 【目的・計画概要等】

1. 目的  
「劇団かなやらび」に対し補助金を交付し、宮古島市内の子どもたちの個性・表現力を伸ばし、成長を助ける活動を支援する。
2. 事業計画（劇団かなやらび）
  - 4月～ 出演者稽古
  - 5月 台本配布、広告準備
  - 6月 キャスト発表 衣装制作 舞台美術制作開始 広告・チケット販売開始
  - 7月 ヘアメイクプランニング パンフレット作成
  - 8月 公演実施 「ミャークファンタジー 碧の涙雨」
  - 9月～ 来年度の公演に向け稽古

### 【実施状況】

劇団かなやらび公演の実施 令和元年8月10日、11日開催 「ミャークファンタジー 碧の涙雨」公演 入場者 778人 ※公演は実施後YouTube「劇団かなやらびチャンネル」にて公開	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	1,233,000 円
	計	1,233,000 円

### 【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	子どもたちの育成事業として市民の関心も高いが、劇団単独事業の困難さから継続支援が必要である。	総合評価： 子どもたちの表現力の向上や、宮古島を舞台にしたオリジナル劇の制作など地域文化の向上に有益な効果を発揮している。また劇団員だけではなく鑑賞する側、特に児童生徒への地域文化の継承もこの事業の大きな効果である。	総合評価
効率性	市からの補助金だけではなく、保護者からの徴収費やチケット収入で補填し、衣装も保護者が手づくりするなど経費削減に努めている。		B
有効性	活動をとおして劇団員の子どもたちの精神的な成長や表現力の向上等、金額には換算できない効果が見られる。		

\* 総合評価（A＝拡充 B＝継続 C＝改善 D＝廃止 E＝完了）

### 【外部評価】

劇団員の活動を通して、表現力の向上やコミュニケーション能力が育まれる「劇団かなやらび」の活動は素晴らしく感じます。また、宮古島を舞台にしたオリジナル劇を制作し、地域文化の向上に努め、鑑賞する側にも劇を通じた感動や地域文化の継承について示唆を与えること等は高く評価できます。これからも舞台芸術を創る活動を通して、子供たちが切磋琢磨しつつ、多くの学びを得てよりよい成長に繋げてほしいと思います。	総合評価  B
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------

## 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：中央公民館

### 【主要施策】

V 多都市間交流の推進

### 【事務事業名】

板倉区交流事業

### 【目的・計画概要等】

多感期にある青少年情操教育の1つとして、城辺地区の児童と歴史的に深いつながりを持つ、新潟県上越市板倉区の児童がホームステイで交流し、お互いの地域文化に触れることを目的に平成6年から行われ、今年で27回目となる事業です。

### 【実施状況】

<p>夏期交流 8月（3泊4日）の日程でホームステイ交流団（派遣児童8名引率者3名）が来訪しました。島内観光、ホームステイ交流、城辺小学校交流、博物館・地下ダム等見学、海水浴体験、人頭税及び宮古島に関する学習などを体験し、歴史・文化の違いや南国家族ができた事で実りある交流ができた。</p> <p>冬季交流 1月（4泊5日、内1泊：東京）の日程でホームステイ交流団（派遣児童8名、引率者3名）が往訪しました。歓迎会、ホームステイ交流、学校交流、中村十作記念館・水族博物館等見学、スキー体験交流を体験した夏期交流からの再会もあり、友好を深めていた。27年目の交流を終え、東京の観光は、皇居前広場・浅草観音と仲見世（自由散策）・東京タワー展望台等の見学して1泊後、宮古空港着にて解散。</p>	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	1,055,000 円
	計	1,055,000 円

### 【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	人頭税廃止国会請願を通し、中村十作氏を始めとする関係者の郷土・兄弟・友人愛等や歴史を知る。	<p>総合評価： 今から約125年前、板倉区稲増出身の中村十作氏が宮古島人頭税廃止に尽力されたことを縁として夏・冬相互のホームステイ交流を通し両地域を結ぶ歴史を学び、風俗や文化の違いなどを体験することにより、広い視野と郷土を愛する心を持った児童を育てると共に両地域の一層の友好親善を深める交流事業である。</p>	総合評価
効率性	児童交流で子供達の成長が窺える。将来必ずや交流の成果が期待できる。大人になっても交流あり。		B
有効性	ホームステイ家族間の交流・子供同士の交流や地域間交流が継続している。		

\*総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

### 【外部評価】

<p>長期間続く交流事業、事業そのものは意義あるものだと思う。訪問する児童達は素晴らしい体験をし、友情を培うことができるでしょう。しかしながら、周りでサポートするスタッフに慣れはないでしょうか。今一度交流事業をするための意義、目的、それから交流することになった経緯等を担当者がきちんと引き継いで欲しい。今回のヒアリングでは、その流れを丁寧に説明してくれました。昨年と同じ事業を担当しましたが、そこまでの説明はありませんでした。この事業はやめることなく継続することを希望します。</p>	総合評価
	B

# 宮古島市教育委員会事務事業点検評価書

課名：中央公民館

## 【主要施策】

V 多都市間交流の推進

## 【事務事業名】

白川町海山交流事業

## 【目的・計画概要等】

下地地区児童の児童を岐阜県白川町に派遣し白川町の児童と自然や生活環境の異なる互いが意見交換会や寝食を共にし、将来の交流事業と地域発展を深めることを目的とする。

## 【実施状況】

<p>夏期交流 8月（3泊4日）の日程で交流団（派遣児童15名引率者5名）が来訪しました。歓迎式、宮古青少年の家にて出会いの会、工作づくり、博物館・地下ダム等見学、海水浴体験、島内観光、宮古島に関する学習などを体験し、歴史・文化の違いを通し実りある交流ができた。</p> <p>冬季交流 1月（3泊4日、内1泊：名古屋）の日程で交流団（派遣児童10名、引率者3名）が往訪しました。歓迎会、出会いの会、工作マイ箸づくり、ダッチオープン料理（ポトフ作り）、スキー体験交流を体験した。夏期交流からの再会もあり、友好を深めていた。12回目の交流を終えて、犬山城を見学して名古屋で1泊後、宮古空港着にて解散。</p>	決算額（財源内訳）	
	国・県	円
	地方債	円
	その他	円
	一般財源	1,047,000 円
	計	1,047,000 円

## 【担当者説明】

区分	説明	内部評価	
必要性	当初は白川町からの児童受け入れのみでしたが相互交流が始まり多文化体験を通して郷土・兄弟・友人愛等や歴史を知る	<p>総合評価： 平成13年以前より白川町より宮古島の市町村と交流を行いたいとの要望があり、交流が始まりました。夏・冬相互の意見交換や寝食を共にするなどの交流を通し両地域を結ぶ歴史を学び、風俗や文化の違いなどを体験することにより、広い視野と郷土を愛する心を持った児童を育てると共に両地域の一層の友好親善を深める交流事業である。</p>	総合評価
効率性	児童交流で子供達の成長が窺える。将来必ずや交流の成果が期待できる。大人になっても交流あり。		B
有効性	ホームステイ家族間の交流・子供同士の交流や地域間交流が継続している。		

\*総合評価（A=拡充 B=継続 C=改善 D=廃止 E=完了）

## 【外部評価】

<p>長期間続く交流事業、事業そのものは意義あるものだと思う。訪問する児童達は素晴らしい体験をし、友情を培うことができるでしょう。しかしながら、周りでサポートするスタッフに慣れないでしょうか。今一度交流事業をするための意義、目的、それから交流することになった経緯等を担当者がきちんと引き継いで欲しい。今回のヒアリングでは、その流れを丁寧に説明してくれました。昨年も同じ事業を担当しましたが、そこまでの説明はありませんでした。この事業はやめることなく継続することを希望します。</p>	総合評価
	B